

- 7月17～19日開催の自発的レビュー(VNR: Voluntary National Review)に参加し、SDGsの取組に係る**プレゼンテーション(約15分間)の実施**と、**報告書を提出**することで(合計44か国が参加予定)、我が国の取組について広く発信。
- より効果的に我が国の取組を発信する観点から、関係省庁、国際機関、民間企業等と協力して、**サイドイベント及び日本政府主催レセプション**の実施も検討。

## プレゼンテーションで発信するメッセージ(案)

◎ **パートナーシップ**を通じた、日本の強み(知恵と経験、イノベーション)を活かしたSDGs達成のための取組。

### 1. SDGs推進に向けた国内の基盤づくり

政務スピーチ

- 日本にとっての意義。
- これまでの取組: 推進本部の設置と実施指針の策定による国内実施体制の整備。ビジョンと優先課題の設定。
- 政府が一丸となって、円卓会議等を通じ、経済界、地方自治体、科学者コミュニティ等の多様なステークホルダーと連携した取組の推進。
- **具体的取組事例**(例: 次ページ)の紹介。

### 2. **パートナーシップ**を通じた世界のSDGs達成に向けた貢献

映像

- これまでの経験(過去)に基づいて取り組んでいる、民間企業等との**パートナーシップ**を通じた、知恵とイノベーションを活かした**具体的取組事例**(現在)を紹介。未来に向けたメッセージ(未来)に繋げる。

### 3. 次世代につなぐSDGsの取組

民間スピーカー

- SDGsを実現する人材・教育の重要性(人づくりは国づくり)。
- SDGs実現に向けた行動の呼びかけ。

### ■ 民間企業との連携

- 例1 **SDGsビジネス調査**: 途上国の課題解決に貢献する民間企業のビジネスモデル構築をODAで一層支援。2017年からODAによるビジネスモデル構築支援の対象を**SDGsすべての分野に拡大**。
- 例2 **SHIP (SDGs Holistic Innovation Platform)**: Japan Innovation Network(JIN)と国連開発計画(UNDP)が共同運営し、SDGsの達成をイノベーションの機会として捉え、世界中の課題の解決を**企業の技術・ノウハウで目指すオープンイノベーション・プラットフォームを立上げ**。

### ■ 途上国のSDGs実施支援

- 例1 **インドネシア国家開発企画庁と協力し**、同国のSDGs実施計画づくりを支援。
- 例2 2017年1月にオープンした「**アフリカ地域持続可能な開発目標センター(SDGC/A)**」の活動計画策定を JICAが支援。

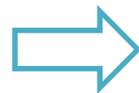


SDGC/A開業式の様子（シワング政府提供）

### ■ 日本の開発経験や強みを活かした国際協力

#### 例1 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ

ケニアでは、妊産婦死亡率、乳幼児死亡率が改善する一方で、地域間、経済水準の違いによる保健サービスの格差が拡大



- 初のUHC円借款(40億円)を通じ、
- 無償産科サービス、貧困層の健康保険加入促進、UHC関連プログラムのマニュアル作成とケニア政府予算確保等
- 地方政府を主体とした保健システムの強化



健康保険証を手に（ケニア）

#### 例2 環境・人にやさしい公共交通システムづくり(インド・デリー地下鉄建設計画事業)

- 交通渋滞の改善(1日あたり平均270万人の利用者数、デリー市内で12万台の移動車両削減)
- CDM事業として国連に登録(CO2削減へ貢献)
- インド全土へ広がるメトロ事業へ

